

北海道本別高等学校

課程 全日制
 学科 普通科
 生徒数 205名

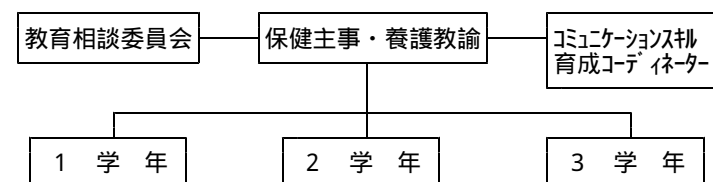
1 取組の特徴

構成的グループエンカウンター等の実施により、教員の予防的・開発的教育相談スキルの一層の向上を図り、生徒の問題行動等を未然に防止する。

2 取組のねらい

幼少期から同じ集団における人間関係が継続しており、生徒の対人コミュニケーションスキルが不足していることから、コミュニケーション能力を高めることにより、集団内の良好な人間関係の構築を目指す。

<組織図>



3 取組の経過

- 4月 緊張感を解き、お互いを知り認め合うための研修の実施（1学年）
- 5月 コミュニケーションスキル研修の実施（1学年）
- 6月 学習環境適応調査（アセス）（第1回）の実施（1・2学年）
- 7月 性に関する講座の実施（1学年）
- 8月 安心できる居場所づくりのための研修の実施（2学年）
- 12月 性の講座の実施（2学年）
- 12月 性の講座の実施（3学年）
- 3月 学習環境適応調査（アセス）（第2回）の実施（1・2学年）

4 取組の内容

1 緊張感を解き、お互いを知り認め合うための研修

- (1) ねらい 新たに入学した生徒の緊張や不安、過度の自己防衛を取り除き、新しい環境にスムーズに適応させる。
- (2) 対象 1学年
- (3) 内容 生徒同士による自己紹介エクササイズやジェスチャーを利用した非言語エクササイズを実施した。
- (4) 成果 クラス内でお互いを理解するきっかけとなり、クラス内の緊張感が緩和された。



2 コミュニケーションスキル研修の実施

- (1) ねらい コミュニケーションスキル向上のための演習を実施し、今後の高校生活の基礎となる人間関係を構築するために役立つ。
- (2) 対象 1学年
- (3) 内容 生徒同士のコミュニケーションを中心としたゲームを実施した。
- (4) 成果 生徒同士の心の距離感が近くなり、人間関係構築の基礎が築かれた。



3 学習環境適応調査（アセス）（第1回）の実施

- (1) ねらい 学級環境適応状況（生活満足感・対人適応・学習的適応）を客観的に分析する。
- (2) 対象 1・2学年
- (3) 内容 アセスの結果が生徒の日常見られる特性とおおむね一致していた。
- (4) 成果 アセスの結果、今後生徒に対してどのようなプログラムを実施していくか、方向性を定める指針となった。

4 取組の内容

4 性に関する講座の実施

- (1) ねらい 性について科学的に理解し、誰にでも起こりうるリスクについての危機回避能力を育てる。
- (2) 対象 1学年
- (3) 内容 ケーススタディやグループワークを実施し、男女の人間関係の難しさについて考えさせた。
- (4) 成果 性についての正しい理解と知識の習得がなされた。



5 安心できる居場所づくりのための研修の実施

- (1) ねらい 固定化した人間関係をシャッフルし、新しい友人と知り合うきっかけづくりをする。
- (2) 対象 2学年
- (3) 内容 6名のそれぞれの人生をまとめたプリントを活用し、それに基づきグループワークを実施し、人にはそれぞれの考え方があることを理解させた。
- (4) 成果 自分と他者の考えの違いを認める態度が育まれた。

6 性の講座の実施

- (1) ねらい デートDVについての理解を深め、男女の尊重し合う関係を築いていく態度を育てる。
- (2) 対象 2学年
- (3) 内容 ロールプレイを行い、デートDVが起こる原因や防ぐ方法について理解を深めた。
- (4) 成果 支配や依存による男女の関係は好ましくないという理解が深まった。

7 性の講座の実施

- (1) ねらい 生まれてから死を迎えるまでの人生をたどり、真剣に死について考えることで、生涯にわたり健康に生きる態度を育てる。
- (2) 対象 3学年
- (3) 内容 生や死についてグループワークを行うことによって、他者とのつきあい方についても考えさせた。
- (4) 成果 健康を保持増進するために必要な知識について理解が深まった。

8 学習環境適応調査(アセス)第2回を3月に実施する予定

- (1) ねらい 第1回と同様
- (2) 対象 1・2学年
- (3) 内容 第1回との比較分析を行う。
- (4) 成果 第1回との結果を比較し、次年度以降の本校でのステップアップ・プログラムの全体計画に活かし、充実を図りたい。

5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数については、ステップアッププログラムを開始した平成21年度には1名であったが、継続して実施することにより平成22年度以降は0名である。不登校生徒数については、平成21年度から現在まで0名～1名で推移している。
- (2) アセスの結果を分析することにより、学校への生徒の適応の実態を把握することができ、授業をはじめ、ホームルーム活動や個人面談等に活かすことができた。
- (3) 昨年に引き続き、集団内の良好な人間関係が構築され、他人を思いやることのできる生徒集団の形成が顕著となり、生徒のコミュニケーション能力の向上が見られた。

2 課題

- (1) アセスの結果が生徒の日常見られる特性におおむね一致しているため、この結果を基に、さらに分析を加えながら本校独自のコミュニケーションプログラムを充実する必要がある。
- (2) コミュニケーションスキルのトレーニングがその場で終わらないよう、年間を通して継続的な指導を行い、学校生活での日常的な活用を促していく必要がある。

3 次年度に向けて

- (1) これまでの「アセス」の分析結果を教員間で共有し、これを基にした研修会を各学期ごとに開催する。
- (2) 本校独自のコミュニケーションプログラムの指導内容、指導方法、成果を検証し、プログラムを充実する。